

窓口の利便性向上へ

窓口番号案内システムを導入

市役所本庁舎1階の市民・国保課籍住民担当窓口に「広告付き窓口番号案内システム」を導入します。来庁者の呼び出し番号を表示する「番号表示機」などを設置し、個人情報に配慮したスマートな窓口業務を行います。



順番が一目で分かるように

同システムでは▽住民票の写しなどの証明書の発行▽住所変更や婚姻・出生などの各種届出▽マッチンバーカード関連一の用件に合わせて番号札を発行する「受付番号発券機」を窓口に設置。呼び出し番号を業務ごとに設けた「番号表示機」で案内します。

また、本庁舎1階の3カ所に43インチのモニターも新設。市からのお知らせや事業者の広告を流します。広告の放映は1月15日から始まります。17日から発券機の運用を始めます。

受け付けの流れ

- ①発券機のメニュー画面で目的の項目を選び、受付番号を受け取る

②記載台で申請書を記入し、窓口へ提出（証明書の発行、住民票の異動届のみ）

- ②記載台で申請書を記入し、窓口へ提出（証明書の発行、住民票の異動届のみ）

- ③番号表示と自動音声で受付番号が呼ばれた
たら窓口へ行き、申請や手数料の支払い
などを行う

※受け付ける内容により順番が前後する場合があります

マイナンバーカードのオンライン
予約をご利用ください

1月17日から、マイナンバーカードの申請・受け取り予約が市LINE公式アカウントとインターネットでできるようになります。スマートフォンやパソコンでいつでも手続きの予約が可能ですので、ぜひご利用ください。



あやべ topics

戦国時代の舞台を体感

市教育委員会は12月17日、広瀬町で山家陣屋・山家城見学会を開催。地元の住民や歴史愛好家など25人が参加しました。参加者は、山家陣屋跡の発掘調査の現場のほか空堀や戦国時代の山城である山家城跡（甲ヶ峯城跡）などを見学。市の学芸員から「城を攻撃する敵は堀で足止めされ上から弓で射られたと考えられる」などと説明を受け、戦いの様子を想像していました。鷹栖町の前田千春さんは「(山頂にある)山家城跡まで登ったのは初めて。歴史に興味があり参加した。発掘調査によっていろいろなことが判明しワクワクする」と目を輝かせました。



親子で人形劇楽しむ

青野町のあやテラス・ホールで12月23日、大阪市を拠点に全国で公演を行う人形劇団クラルテによる人形劇「11ぴきのねこ」が上演されました。午前と午後の2回公演に親子連れなど296人が集まり、団員が操る猫たちのいきいきとした動きに見入っていました。福知山市から訪れた四方千仁君は「4人だけで全部できるのがすごい。面白かった」と声を弾ませました。

新年の誓い新たに

日本ボーイスカウト綾部第2団（猪岡敏一団委員長）は1月1日、上野町の藤山公園（寺山山頂）で元旦寺山山頂国旗掲揚式を開催。国旗・市旗・世界連邦旗の掲揚や市民憲章の唱和、和平の鐘の打ち初めなどが行われました。同団の池田昊大さん（綾部中学校3年）は「元旦にしっかりと国旗掲揚を行うことができ良かった。今年はボーイスカウトの活動と受験勉強を頑張る」と新年の決意を語りました。



延べ320人が受講し市民大学修了

12月23日、9月に開講した「あやべ市民大学」の最終講座と修了式を青野町のものづくり交流館で開催。山崎市長が閉講のあいさつをした後、全7回の講座のうち5回以上を受講した30人を代表して、味方町の青木純子さんに修了証を手渡しました。青木さんは「今年は夫婦で参加した。綾部市の歴史や資産形成のことなどに興味を持った。これから学びを深めていきたい」と話しました。

都市住民が綾部で交流

綾部里山交流大学 里山暮らし体験ツアー

里山ねっと・あやべ（滋野浩毅理事長）は12月8～10日、シブヤ大学（左京泰明代表理事）と共同で綾部里山交流大学の里山暮らし体験ツアーを開催。都市住民が本市の住民と、農作業や散策を通じて交流しました。



児玉さんから植物の説明を受けながら光明寺周辺の林道を散策した

綾部里山交流大学とは

平成19年に設立された。地域住民が都市住民と交流し里山ビジネスや地域づくりを学び、関係人口の創出や定住促進を目的に事業を展開。これまで学生や社会人など約8000人以上が受講した。当時は全国から有名講師を招いて宿泊を伴う集中合宿型で実施。現在は、市民が講師を務める日帰り参加型を中心に「あやべなまち旅」「天職観光」などの事業を行っている。

平成16年に東京都渋谷区で特定非営利活動法人として設立。「誰でも無料で学べる、まちの学び場」として活動している。全国のいろいろな場所やオンラインで地域振興や環境問題、伝統・文化、働き方や生き方を見つめ直すワークショップなど多様な授業を開催。これまで1400を超える講座に約3万6千人超が参加している。

上林を舞台に田舎暮らしを学ぶ

同ツアー事業は今年で2回目。昨年は9人が市内で農泊し、山崎市長との意見交換や寺山の散策などが行われました。

今回は、東京都や埼玉県、京都市などから9人が参加。初日は6人が、里山交流研修センターで懇親会を実施後、市天文館パオを訪れ、反射望遠鏡で土星やオリオン大星雲などを観察しました。

二日目は睦寄町の二王の柄で、昼食をとった後、△ネイチャーガイドの児玉裕美さんと君尾山を散策△自然農を実践する野田尚さんと農業体験△二王の柄の従業員、山下恭平さんと薪割り体験一に

参加。あやべ温泉で疲れをとった後は、上林で宿泊しました。

最終日は、体験の振り返りからスタート。参加者は△憧れていた田舎生活がそのまま再現されていた△人生が変わる出会いがあった△誰にも相談できなかった悩みを初めて会った人だからこそ打ち明けることができたなどの感想を共有しました。その後「書き納め」と題して書道を体験。黒谷和紙に自分の思いや目標などを記し、旅を締めくくります。

参加者は「綾部の星空に感動した。朝の凜とした静けさや空気の清々しさに癒された」などと話し、地元住民の日常が、都会からの参加者にとっては貴重な体験であることを教えてくれました。



※单子葉植物…最初に生えてくる葉っぱの枚数が1枚の植物のこと

光野町で平成26年、府内でも最大級といわれる大カツラの周辺で、絶滅が危惧されている「ヒメザゼンソウ」の群生が発見されました。身近な希少野生生物「ヒメザゼンソウ」を通じて、綾部の豊かな自然や環境保全について考えてみませんか。

名前の由来は花の形

ヒメザゼンソウは、単子葉植物（※）・サトイモ科・ザゼンソウ属の植物です。「ザゼンソウ」は、仮様が座禅しているような姿に見えることからその名前が付きました。そして「ザゼンソウ」の小さい花序（肉穗花序）。その花序を背後から取り囲むのは、濃

図書館ほんてほんて通信mini

世界中で愛されているあのトットちゃんが帰ってくる！東京大空襲の数日後、青森を目指して、1人夜行列車に乗ったトットを待ち受けている試練とは？



おすすめポイント

続 窓ぎわの
トットちゃん

著者＝黒柳徹子
出版社＝講談社

発行部数は国内で800万部、全世界で2,500万部を突破した「窓ぎわのトットちゃん」。その続編が42年ぶりに出版されました。泣いたり、笑ったり……トットの青春記を読んでみませんか？

環境コラム

ヒメザゼンソウを知っていますか？

手話でつながろう

今月の手話

困る



右手4指を曲げ、指先で頭をかくしぐさをする

協力：京都府聴覚障害者協会綾部支部



豊かな自然を観光資源に活用
過去にカヤの収穫に利用していたシデ山を観光資源として活用しようと、平成22年から地域の有志が林道の整備や登山会などを開始。6つの滝や雲海が見られる山頂からの眺望などが人気を呼び、絶景のシデ山山頂「みと広場」でくつろぐ登山客

鳥垣



12月10日、餅つき体験会には子どもや大学生などが多く参加した

シリーズ 人権を考える
(21) 第65回全綾部市人権教育研究集会
「言葉の責任、ネットの被害者・加害者にならないために
命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心」
講師のスマイリー・キクチさんは、「過去に起きた殺人事件の共犯者だ」というインターネット掲示板への事実無根の書き込みによって、20年以上も誹謗中傷を受けました。スマイリー・キクチさんのへの脅迫等で立件された人の多くがデマを本気で信じ正義感で誹謗中傷をしていたといいます。そのため「自分が本当に正しいのか」疑う感性を持つない加害者による可能性がある」と強調。そして多くの人が気軽に利用するSNSでは誤った情報を拡散させることがある。誰でも発信しなれるが、軽い気持ちで発信したことが他人を傷つける可能性がある▽自身にも重い責任が伴う▽未来を狭めてしまうことを知つてほしい」と呼び掛けました。

自分の言葉に責任を持ち発信を
スマイリー・キクチさんは、「誹謗中傷がきっかけで自ら命を絶つた人のケース等を紹介し、大人は子どもにSNSの使い方や危険性をしっかりと教えるべきであると主張。最後に、誹謗中傷をなくすため「実名で書けないことは匿名でも書き込まない」「スマホのコメントロールよりも感情のコメントロールが大切」だと訴えました。



今回は、11月
日開催された同
研究集会の内容を
お知らせします。
スマイリー・キクチさん

「言葉の責任、ネットの被害者・加害者にならないために
命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心」
講師のスマイリー・キクチさんは、「過去に起きた殺人事件の共犯者だ」というインターネット掲示板への事実無根の書き込みによって、20年以上も誹謗中傷を受けました。スマイリー・キクチさんのへの脅迫等で立件された人の多くがデマを本気で信じ正義感で誹謗中傷をしていたといいます。そのため「自分が本当に正しいのか」疑う感性を持つない加害者による可能性がある」と強調。そして多くの人が気軽に利用するSNSでは誤った情報を拡散させることがある。誰でも発信しなれるが、軽い気持ちで発信したことが他人を傷つける可能性がある▽自身にも重い責任が伴う▽未来を狭めてしまうことを知つてほしい」と呼び掛けました。

スマイリー・キクチさんは、「誹謗中傷がきっかけで自ら命を絶つた人のケース等を紹介し、大人は子どもにSNSの使い方や危険性をしっかりと教えるべきであると主張。最後に、誹謗中傷をなくすため「実名で書けないことは匿名でも書き込まない」「スマホのコメントロールよりも感情のコメントロールが大切」だと訴えました。